

主 催：(社)東京建築士会
協 力：(一財)ギャラリー エー クワッド
後 援：(公社)日本建築士会連合会
(一社)東京都建築士事務所協会
(社)日本建築学会 関東支部
(一社)日本建築家協会 関東甲信越支部
(株)新建築社
『日経アーキテクチュア』
特別協賛：(株)総合資格

社団法人 東京建築士会
〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12オフィスタワーZ棟4F
(晴海トリトンスクエア内)
tel: 03-3536-7711 (代表)
E-mail: info@tokyokenchikushikai.or.jp
http://www.tokyokenchikushikai.or.jp/

〔カタログ〕
企画・編集：髙海浩康、梅津洋佑／社団法人 東京建築士会
デザイン・制作：株式会社 ケンオン
発 行：社団法人 東京建築士会

© 社団法人 東京建築士会 2012

第12回

住宅課題賞 2012

RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2012

〔開場日時〕

2012年10月9日(火)～11月9日(金) 日・祝日休館
10:00～18:00(最終日16:00まで)

〔会 場〕

ギャラリー エー クワッド

所在地：〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店 東京本店1F
TEL: 03-6660-6011 http://www.a-quad.jp



GALLERY A4

第12回

住宅課題賞 2012

入選作品展

RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2012



ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クウッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は12回目を迎えましたが、さらに参加学部が増え、本年は34大学44学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クウッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2012年10月
社団法人 東京建築士会

公開審査

【日 時】

2012年10月27日(土) 13:00～17:00

【会 場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審 査 員】

公開審査員：審査員長 植田 実（編集者・建築評論家）

審 査 員：大西 麻貴（大西麻貴＋百田有希／o+h）

平瀬 有人（佐賀大学大学院准教授／yHa architects）

藤原 徹平（横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授／

フジワラテッペイアーキテクトラボ）

松岡 恭子（東京電機大学未来科学部准教授／

スピングラス・アーキテクト）

司 会：木下 庸子（工学院大学建築学部教授／設計組織ADH）

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。課題作品は、平成23年9月（前年後期）以降のものとする。出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm×横594mm）縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。大きさは、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【 賞 】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

参加大学（予定）：34大学44学科

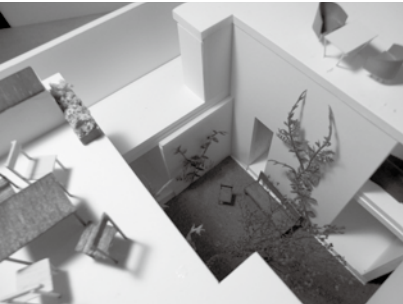
01. 宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース
02. 神奈川大学 工学部 建築学科 デザインコース
03. 関東学院大学 工学部 建築学科 建築コース
04. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース
05. 慶応義塾大学（SFC）総合政策学部 総合政策学科
06. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
07. 工学院大学 工学部 建築学科
08. 工学院大学 工学部 建築学科 建築学コース
09. 国士館大学 理工学部 理工学科 建築学系
10. 芝浦工業大学 工学部 建築学科
11. 首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース
12. 昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース
13. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
14. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科
15. 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース
16. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザインコース
17. 東海大学 工学部 建築学科
18. 東京大学 工学部 建築学科
19. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
20. 東京芸術大学 美術学部 建築科
21. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
22. 東京都市大学 工学部 建築学科
23. 東京理科大学 工学部第一部 建築学科
24. 東京理科大学 工学部第二部 建築学科
25. 東京理科大学 理工学部 建築学科
26. 東洋大学 理工学部 建築学科
27. 日本大学 芸術学部 デザイン学科 建築デザインコース
28. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
29. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース
30. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
31. 日本大学 理工学部 建築学科
32. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
33. 日本工業大学 工学部 建築学科
34. 日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科
35. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 建築デザインコース
36. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
37. 前橋工科大学 工学部 建築学科
38. 武蔵野大学 環境学部 環境学科 都市環境専攻
39. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
40. 明海大学 不動産学部 不動産学科デザインコース
41. 明治大学 理工学部 建築学科
42. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
43. 横浜国立大学 理工学部 建築学科
44. 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科



01 「集合住宅」 集まって住むこと、いろいろな「関係」を考える。
敷地は宇都宮市の市街地にあり旧日光街道に面する。江戸時代から続く街道に面しながら、現在は歴史の面影を失ったこの地に、中庭を持つマチヤの形態、宇都宮特有の切り妻型の石の蔵の形を持つ集合住宅を提案する。互いにずれながら繋がりていくマチヤたちは間に路地を内包し、歴史を継承しながら新たな風景とコミュニティの創出をする。



横山 伊織 宇都宮大学
工学部 建設学科 建築学コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:安森 亮雄
指導教員名:若松 均



02 時間と住宅 —30年を設計する—
時間と住宅ということで、30年たてば住む家族の生活や年齢が大きく変わる。そこで私は、30年のあいだに住む家族にあった住宅に変化するために動く壁をコンセプトにした。2つの家族が生活しようということで、動く壁でいれこの部屋を大きくすることでパーティができるし、動かさないでプライベート空間にもできる。3階は半外部になっていて桜を見ながらおちつけるカフェになっている。



中庭 耕太 神奈川大学
工学部 建築学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山家 京子
指導教員名:早草 睦恵



03 ここにしかない家 —20年後に自分の家族が住む場所+α
私は現在、Jazz研究部に所属しているが、OBを含め、全員の共通点である"Jazz"ができ、集まることのできる場所がない。そこでJazz研究部の学生、OBがいつでも集まることのでき、つながっていく場として、Jazz Barを持つ、私たちの"ここにしかない"場を提案する。



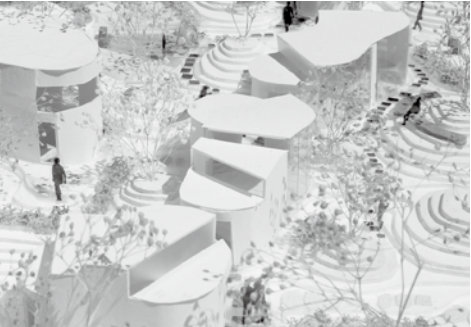
柴 侑里 関東学院大学
工学部 建築学科 建築コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:関 和明
指導教員名:関 和明、大塚 雅之、木内 達夫、小川 守之、小形 徹、白石 越郎



04 都市の狭小住宅
都心での生活を考える。此処では施主の趣味である蒐集されたアート作品を内包した直方体のチューブ状の空間をギャラリースペースとし、それを囲いで覆うことによって生まれた残部空間に施主は生活する。生活機能は必要最低限となっており都心の利便性を享受し楽しむライフスタイル。都心に住まうカタチとして日常空間ではなく非日常空間をありきとして夫婦2人の生活は営まれる。



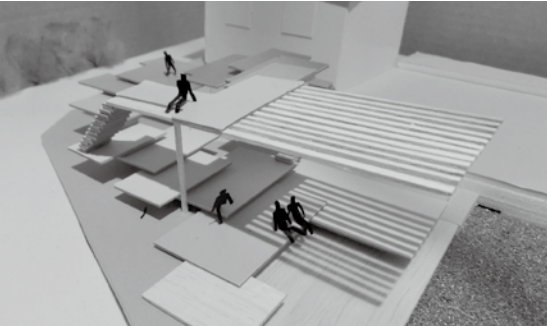
山口 文葉 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:高橋 大輔
指導教員名:高橋 大輔



05 デザインスタジオ (住まいと環境)
敷地は代官山と中目黒をつなぐ場所です。ここには、それぞれの目的を持った人々が代官山と目黒を行き来する抜け道があります。人が歩くと地面は削られ、凹凸をつくりだすことを利用して、抜け道となっているこの敷地に凹凸をつくり、凹部分に建築を、凸部分に広場を配置しました。通り抜けるための建築があることで、ただの通り道となっていた場所が、コミュニティの場となっています。



杉崎 奈緒子 慶応義塾大学(SFC)
総合政策学部 総合政策学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:小林 博人
指導教員名:木下 庸子、戸田 知佐



06 外のある家
長い階段をのぼり、敷地にたどり着く。その「のぼる」という行為を住宅の中に引き込むことで「外」を表現した。家の中心にある光庭を軸に、折り重なる無数の床を一段一段のぼることによって、緩やかに空間が移り変わっていく。段差によって様々な場所が生まれ、どこにいても家族の気配を感じられる住宅を設計した。



樋口 祐介 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子
指導教員名:西森 陸雄、後藤 治、下田 明宏、赤木 徹也、石田 亨、伊藤 潤一、井上 康、粕谷 淳司、西島 正樹、下田 明宏



07 都市移住 (都市機能を併設させた新しい集合住宅のかたち)
住民同士・周辺地域との繋がりをもち集合住宅のあり方は可能だろうか？閉鎖系で建てられてきた集合住宅を開放するための手法として、2つの性格の違う棟とその間にできるスキマで空間を構成していくことを提案する。それぞれにプライベート性とパブリック性を与え、その2つがスキマを挟み繋がることで、個人の生活を保ちつつ住民同士・地域社会との繋がりを創り出す集合住宅を計画した。



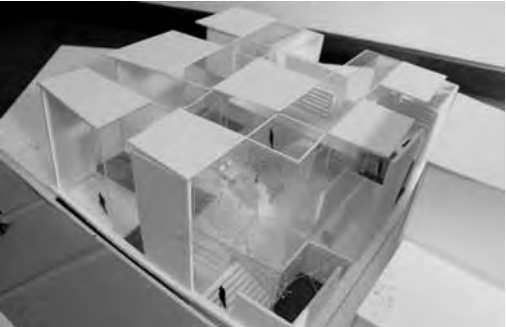
垣中 智博 工学院大学
工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:木下 庸子
指導教員名:木下 庸子、西森 陸雄、J. ランビアーシ、押尾 章治、小川 真樹



08 アトリエを持つ家
アトリエを持ち、まだ幼い子供がいる長男家族、20代の娘がいる長女家族、70代の老夫婦の3世帯が住むための家。それぞれの生活空間は独立しているながらも、曲線によってひとつながりになり、それぞれの生活の情景が緩やかに繋がる。曲線から生まれた内部空間は、家具やボックスの配置によって空間を仕切ることで透明感のある空気の繋がった空間となり、お互いの生活の気配を感じられる。



満永 藍 工学院大学
工学部 建築学科 建築学コース／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:中村 勉、谷口 宗彦、山下 てつろう
指導教員名:谷口 宗彦、赤木 徹也、井上 康、後藤 成身、小林 将夫、中山 繁信、細谷 功



09 アトリエのある家

油絵画家の為のアトリエのある住宅。敷地を同じ幅の細長い長方形で線を4本引き、それによって空間を区切った。壁はできるだけ排除してレベル差をつけて境界を表し、家族がリビングに集まりたくなるような広々とした、開放的な空間になるように心がけた。敷地に接している緑道に対してひらいており、近くにある公園と2階の踊り場が対角線でつながっている。



田中 麻梨奈 国士舘大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:南 泰裕
指導教員名:前田 紀貞



10 様々な変化する生活シーンを考えた住宅

地上から解放された「部屋」と、そうでない「庭」。部屋同様、庭にも目的に合う場所がある。それは【レベル±0】とは限らない。庭にレベル差を加えると部屋と庭とのちょうどいい関係が生まれる。「平屋」を「地面に接している建物」と定義すると「積層」された「平屋」という新しい住空間ができる。積層された庭は「地形」をつくり、「セキソウヒラヤ」が集まり、街区に「丘」ができる。



守屋 真一 芝浦工業大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郷田 修身
指導教員名:郷田 修身



11 豊かな建築としての住宅

家族が集まる庭、ご飯を食べる庭、本を読む庭。庭の一部に住空間が存在する。ゆるやかな傾斜によって庭と建築に新しい関係が生まれる。現在失われつつある住宅の中の庭と建築の関係に着目し、庭を取り込んだ豊かな住空間を提案する。



川畑 友紀子 首都大学東京
都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:深尾 精一、猪熊 純、伊藤 暁、末光 弘和
指導教員名:深尾 精一、猪熊 純、伊藤 暁、末光 弘和



12 「〇〇に住む」―上町をリサーチし提案する―

line×void
車両基地のある上町駅から伸びる線路脇にある、都市的な細長い空間(void)に住む。ここにある細長いライン(line)。住宅も縦方向に分割、集積し、さらなるライン(line)を加えてゆく。住戸と住戸の間には沢山の空隙(void)をつくる。この空隙は光・雨・風を取り込み、都市の景色を最大限に獲得する。また、この空間は居住空間を外側へ開き、住民同士の交流を促す。



渡辺 知代 昭和女子大学
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:杉浦 久子、加茂 紀和子、禿 真哉
指導教員名:杉浦 久子



13 集合住宅計画

住戸同士の関係を見直す必要がある今、代官山という土地に橋で繋がる住戸を計画することで、人々に意識させる提案をする。橋というのは人や物が、谷、川、窪地や道路などの交通路上の交差物を乗り越えるための構造物であるが、そこには土地と土地を繋げ、人と人を繋げる想いがあると考えた。各住戸のプライバシーを確保しながら自分たちの意志で交流できるような住宅計画となっている。



相原 ふたみ 女子美術大学
芸術学部 デザイン学科 環境デザイン専攻／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:飯村 和道
指導教員名:飯村 和道



14 風景の中の住空間

つながる家
普段忙しい情報デザイン作家とそのご家族に、勤める大学近くの多摩の自然に触れ、気分を変えて頂ける週末に出来たらと思いました。この家は「内部」「外部」を無くした広がる空間で、人や自然とつながると見る景色 いる場所が自分の好きな空間へ変化していきます。つながりがつながりを呼び連鎖していくことで人との関わりが楽しくなっていく家にしました。



早川 伸子 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:1年
出題教員名:田淵 諭
指導教員名:田淵 諭、森下 清子、米谷 ひろし、古暮 和歌子、田嶋 豊



15 小住宅の設計

家族は1つの家で日常生活を共にしているが、個人の生活がありそれぞれ距離を持っている。それは家だけでなく地域の人に対しても同じことだと思う。私はこの距離を建築の空間に落とし込むように計画してみた。曖昧に繋いでいく事により、家族と家族、家族と地域、地域と地域のコミュニケーションが豊かになるのではないかと考えた。



石井 徹 千葉工業大学
工学部 建築都市環境学科 建築設計コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:片山 律
指導教員名:後藤 伸一、片山 律、石原 健也、遠藤 正樹、千葉 貴司、山崎 鋼介



16 ミニマル・コンプレックス

作品名「UPS&DWNS」
都市における住宅と車の関係について考えた。都心部は駐車場代が高く、また限られた敷地面積の中でどう車を配置するか悩みの種である。都市で愛車と共に暮らす住宅の解答の一つとして私は文字通り「共に暮らす」住宅を提案する。車が載っているスラブが上下し各階のスラブと合わさって初めて生活空間となる。一緒に住める。というより一緒にいないと住めない。



鈴木 陸 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鶴沢 隆
指導教員名:鶴沢 隆



17 カイダンとイエ

「カイダン」を床と階段の間のような曖昧なものとして捉え、生活機能を分散させることで空間に流れや軽やかさを与え、「カイダン＝繋ぐモノ」の魅力を感じさせる住宅を考えました。床板と壁板をシンプルに組み合わせ、外部に開いた空間が少しずつずれて建物を囲み、手を伸ばせば木々に届くような、自然と一体化した開放的な領域が連続していきます。



猪狩 渉 東海大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:吉松 秀樹
指導教員名:吉松 秀樹、山崎 俊裕、渡邊 研司、古見 演良、更田 邦彦、木島 千嘉、岸本 和彦、納谷 新、堀井 義博、武井 誠

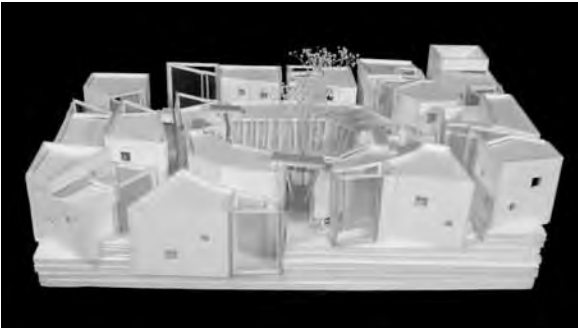


18 都立梅ヶ丘病院跡地のまちづくり計画

病院跡地での高齢者集住、多世帯型集住、福祉施設、防災広場等の設計。街を歩いていると広々とした大通りよりもむしろ狭く密度の高い路地裏に魅力を感じた。離れていても距離が近い個々の住宅と路地が、街路樹や庭の草木を通して絶妙に混ざり合い、一つの集合住宅のように見えた。その梅ヶ丘の街の良さを生かすことで地域の人と高齢者をつなぐ集合住宅を設計した。



西崎 慶 東京大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:西出 和彦、大月 敏雄
指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、佐藤 淳、羽鳥 達也、岡本 和彦



19 ○○が集まって棲む家+□□

ここは旅人が集まって棲む街。旅人が棲む住戸の一つ一つが路地のような複雑な道の空間を創りあげている。空間が生み出す人と人の距離。それは、何処か旅に出かけた時のような人と人の出会いや新しい発見が生まれる空間に繋がるのではないだろうか。旅人が残す旅の記録をツアーギャラリーとして外部に開放し、旅人同士や外部の人でも旅の経験や情報をシェアする空間として機能する。



五十嵐 明子 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:瀬川 康秀
指導教員名:瀬川 康秀、杉本 茂、原口 秀昭、前鶴 謙二



20 自然と生活、そしてリズム

敷地の根津神社に、常時、風が吹きぬける場所を発見した。それは、本殿を囲う堀と、つつじが密生した傾斜地の間の道の脇を流れる、細長い水路の上である。私はここに、風が吹きぬける住宅を提案する。



北城 みどり 東京芸術大学
美術学部 建築科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:乾 久美子
指導教員名:乾 久美子、西澤 徹夫

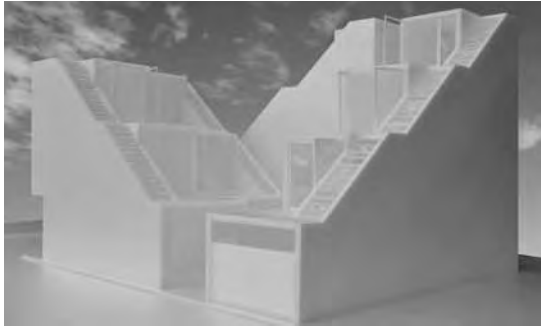


21 集合住宅の設計

住居者だけでなく通りがかった人々もくつろげるような空間を考え、そのきっかけとして敷地の中に丘を作った。丘に対して建物が入り組んでいるので奥が見えるようで見えなくっている。奥にはどんな空間が広がっているのだろう、通りがかった人の好奇心をくすぐるような配置をした。建物自体は丘の中心に対して開放的になっていて、中心からは居住者の生活感があらわれている。



嶋田 恵 東京電機大学
未来科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山田 あすか、川辺 直哉、佐藤 裕、鈴木 雅之、角倉 剛、八木 敦司
指導教員名:川辺 直哉



22 屋上のある家・アウトドアライフの家

わざわざ階段を上がり、最上階を超えてやっと辿りつく屋上が生活の一部となることはない。室内の生活の場に常に密接し、「屋上に上がる」ということを意識せずに使えることが重要であり、それを形にしたのが今回の作品である。また、分棟で配置することで各住居者のプライバシーを守りつつ、建物は街にも開き、屋上での交流により住居者間のコミュニケーションをも可能にした。



伊藤 大生 東京都市大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:手塚 貴晴
指導教員名:松井 亮



23 神楽坂に住む

古い住宅街で、土着の人と「よそ者」が各自の立ち位置で暮らす家を考案。両者を繋ぐ町会を強調するため、敷地付近で孤立していた掲示板と、小さな会合を開ける座敷を設け、路地で繋ぐ。住人は嫁と姑と孫。家を2枚の垣根に見立てる。1階の垣根の隙間はすれ違いの空間。垣根が交差する3階寝室はプライバシー重視。2階は孫を介して嫁・姑が交流する食堂。新しい2世帯住宅の形である。



仲尾 梓 東京理科大学
工学部第一部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:石橋 敦之、加茂 紀和子、薩田 英男、船木 幸子、峯田 建、熊谷 亮平
指導教員名:石橋 敦之、加茂 紀和子、薩田 英男、船木 幸子、峯田 建、熊谷 亮平



24 3つの住宅（50㎡、100㎡、200㎡）

家族というのは元々一つの家で大勢が暮らす賑やかなものであった。しかし現在、2世帯以上が一緒に暮らす形は多くない。老人の孤独死や一人子供の事故など、新しい家族の形態によって以前はなかった悲しい現象が今は大きな社会問題とされている。核家族という現在の形とそもそも一つの屋根の下で暮らす大家族の形を融合させ、プライベートを守りつつ、家族間和気藹々できる住宅を提案する。



徐 政煥 東京理科大学
工学部第二部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山名 善之
指導教員名:柳澤 潤



25 20年後の私の家

私と妻、子供二人という家族構成を想定している。今回の設計におけるコンセプトは屋内の2つのラインに壁を配置するか、配置しないかという1つの手法のみで住宅をつくるというもの。壁の配置により内部空間や開口部、建物の外観までもがつつむぎだされ、プライベート空間と家族に対してのパブリックな空間が1階、2階、3階と縦に並ぶという新しい住居空間が構成される。



外川 喜裕 東京理科大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:森 清敏
指導教員名:高橋 聖



26 家族をリスタートする住宅

閉鎖的になり人との繋がりが失われつつある日本の住宅において、より繋がりを求めた住宅を目指した。物が他の国に比べて多い日本の生活において、それらが溢れ出し、溢れ出したものをかいて人と人との繋がりが、情報を発信していく。十年、二十年と変化していきより人と人が近くなる住宅を提案します。



押山 玲央 東洋大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:篠崎 正彦
指導教員名:篠崎 正彦



27 MY HOUSE ～上を向いて住まう～

私と友人とのアトリエ兼住宅。来客が来た時に「素敵だな」と思ってもらえる空間が望ましいと思い、外観は華やかさを出すために庭を設けた。この敷地は側面からの光の取り入れが難しいため中心部分に空間をつくる事により、内側から光を取り入れた。内部はアトリエという来客が多いパブリックなスペースと住宅のプライベートなスペースを分けるために、動線に気を配った。アトリエとしても住宅としても豊かな空間にしたいと思った。



仲野 沙織 日本大学
芸術学部 デザイン学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:阿部 勤
指導教員名:阿部 勤



28 20年後の私の家

20年後の自分。それは日々の仕事に追われ、息子と遊びに行く機会も少なくなる。そこで、自宅で子供と遊べる家を提案する。まず、自分が子供の時どんな家で遊びたかったのかを思い出してみると、実家が平屋であったため、3階建てなどの高い所で遊ぶのが夢だった。これを踏まえると、スキップフロアがでかいろんな高さが生まれ、様々な場所で息子と遊ぶことができる空間となっている。



岡田 遼 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:森 清敏
指導教員名:桑田 豪



29 集まって住む 一住むことのリアリティーを問うー

隣の人の名前を知らない。上の階の人も知らない。みんな今の生活に満足してアクションを起こさなくなってしまったから。敷地内に40の居住ユニット。20の世帯はそれぞれ2つを選択して生活する。モンダイをみついたらそれを解決する。するとまた新しいモンダイが見えてくる。この繰り返し。だからこのモンダイを解決するために。僕はこの集合住宅に解決できないモンダイをふやそうと思う。



大豆生田 統一 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:森山 ちはる、篠崎 健一
指導教員名:森山 ちはる、篠崎 健一



30 集合住宅

現代の集合住宅はそこに住む人を限定しており、そのため単身から家族となった時に同じ集合住宅には住めず転居することとなる。こうして一カ所にとどまることのできないことが住人同士や地域とのコミュニティの希薄に繋がっているのではないだろうか。そこで集まって住むからこそ人々の暮らしの変化に対応でき、世代を超えたコミュニティをつくる集合住宅を提案する。



小出 杏 日本大学
生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:木下 庸子、木下 道郎
指導教員名:木下 庸子、木下 道郎



31 集合住宅

三方道路、南面住宅展示場という立地に対して立方体をタテヨコ数珠つなぎにして複数の住宅を敷地に展開した案。ノンヒエラルキカルなヴォリューム配置により生み出された路地状空間が、採光、通風、眺望などの基本的住空間を補定している。単純な構成だが、戸建て住宅の利点と、一軒家では得られないテリトリーの拡張が計られ、内外空間ともに多様な空間となっている。また「片流れ」というデザイン要素を加えることにより全体の単調さを免れ、アクセントとなり他にはみられない住宅形態となっている。独立性と連続性、開放性、拡張性、用途転用への可能性など集まって住むことへの可能性を示唆した案である。



行徳 美紗子 日本大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:佐藤 慎也
指導教員名:若松 均



32 仙台堀川の集合住宅 ～アーティストたちが暮らす水辺の集住体～

仙台堀川のほとりに計画された集合住宅。そこに住まうのはアーティスト達。3Chouseには、そんなアーティスト達の創作意欲を刺激するためのしかけや、地域住民のとの交流の場を創出することでアーティスト達によりよい刺激を与えるための豊かな空間を生み出す事を期待し設計した。



川崎 将 日本大学
理工学部 海洋建築工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:矢野 一志
指導教員名:矢野 一志



33 日工大学寮

学生寮を設計した。建物を幾つかのブロックに分節し、それらを何らかの関係で繋ぐ。匂い、視線、笑い声、足音などが寮全体にこだまし包み込む。どこかで離れ、どこかで繋がる。どこかで手をとり、どこかで寄り添いあう。これらの行為は波紋のように広がる。さらに雨の日は、屋根からしたたる雨が膜となり、いつもと違った姿になる。これにより建築の領域も曖昧になるだろう。



田端 由香 日本工業大学
工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:武田 光史、石黒 由紀
指導教員名:武田 光史、石黒 由紀



34 シェアハウスをデザインする

洋服が好きな若者が集まるシェアハウス。この建物は、広間の回りに5つの個室と水回り、広間の南側に中庭を介して繋がる工房からなる。共用スペースの広間からは、個室のスモークガラス越しに洋服の彩りや住人の気配を感じ取れる。洋服をつくる工房は、直接外からアクセスすることができ、地域との交流の場としても機能する。住人たちが緩やかな距離感を保ちながら生活できる家である。



及川 典子 日本工業大学
工学部 生活環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:黒津 高行
指導教員名:黒津 高行



35 シェアする住まい

鉄道ジオラマ模型をこよなく愛し、制作することを趣味とする4人のシェアハウス。眼下を走る江ノ電が廊下越しに見える広いアトリエで住人全員でひとつの模型をつくっていく。完成作品はギャラリーに展示して趣味の仲間や地域の人にも楽しんでもらう。鉄道ジオラマ模型を通して住人同士のコミュニケーションをはかり、展示を見に訪れる人々ともつながるような空間をもつ住まいである。



高梨 早希 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:浅沼 由紀、曾根 里子
指導教員名:浅沼 由紀、曾根 里子



36 住宅 <床、壁、天井による場の構成>

床、壁、天井の関係について考えた住宅。不連続な部分をもつ床を設ける、また吹き抜け部分に壁を設ける。これらから生じる水平的、垂直的な空間のつながりを通して、家族の新しいコミュニケーションのとり方、周辺環境との関わり方の出来る住宅を提案します。



前波 可菜子 法政大学
デザイン工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:富永 譲
指導教員名:富永 譲、下吹越 武人

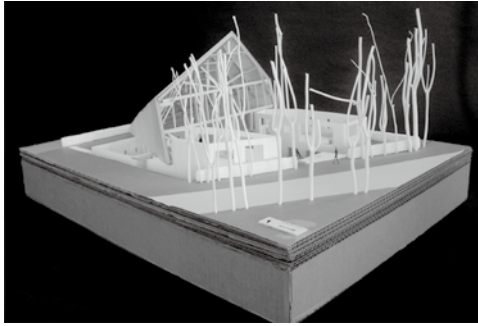


37 まちなかにある集合住宅

前橋のまちなかを流れる深緑色の広瀬川、側には遊歩道があります。この集合住宅では、遊歩道から敷地内へ連続する道を配置し、そこから立体的な外路で各住戸へとつなげています。一人、夫婦、家族、シェア、分居など、様々な住まい方のできる異なる住戸面積・プランを組み合わせた30戸の集合住宅ですが、住民たちはこの外部空間を共有し、ささやかなコミュニティを築いてゆくのです。



佐崎 明 前橋工科大学
工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子
指導教員名:石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子



38 10人が集まって住む空間

敷地は武蔵野市の閑静な住宅街の中心にある。教育機関の充実したこの地に「芸術的な教育」を発信することの出来る空間が必要だと考えた。「東京」の「この街」に「集まって住む」ことの意味を最大限に発揮することの出来る住宅を計画した。公民館的要素を持ち合わせた集合住宅が周辺環境を巻き込みながらも大きな屋根の下で心地よく暮らして行ける、2面が溶け込む住まいの提案をする。



袴田 千晶 武蔵野大学
環境学部 環境学科 都市環境専攻／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡
指導教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡



39 松濤プロジェクト（都心部における住宅+αの新しい可能性を提案する）

今までの住宅は、家族か個人かという2つの選択肢しかなかった。これにシェアハウスと地域を加えることで、住宅はもはや家族を容れるハコではなくなる。この住宅はオーナーの住宅に加え、賃貸のシェアハウスと地域のコミュニティハウスがある。性質の異なる居場所が複数存在し、人々は気分や目的に応じて自分の属する集団と居場所を選択する。ここでは、家族は選択肢の1つとなる。



田中 裕太 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂
指導教員名:布施 茂、若松 均



40 今日の役割を担う都市住宅

道路と道路を1階の住棟内でつなぐL字のアプローチ空間と、外部階段から2階に上がり屋上に至るアプローチ空間を複層させたメゾネット形式の集合住宅。1階、2階のL字のアプローチは平面的に交差していてスリットで上下の気配を感じられる空間になっている。各住戸の居住者が敷地と建物全体を巡る動線の空間体験を共有することでコミュニケーションがとれることを意図した。



金 嘯 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:久野 靖広、蜂屋 景二
指導教員名:久野 靖広、蜂屋 景二

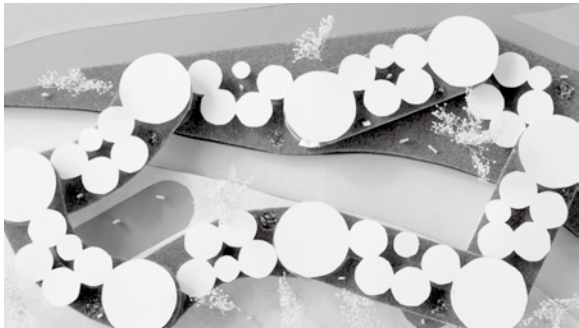


41 緑道沿いの集合住宅

南北面貫通する均質な開口から、人々が暮らす様子がうかがえる。テラスで本を読む男性。おままごとをしている小さな女の子。食事の用意をしている女性。一見すると、家族構成や空間の用途は分からない。均質な開口の中には、バリエーション豊かな10戸の住戸が組み込まれていて、人々はプライバシーの守られたこの住戸で生活する。人々の生活が、この集合宅をより豊かにする。



田島 亜莉沙 明治大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:大河内 学
指導教員名:桐山 和広



42 私の考えるシェアハウス

「引きこもり」の共通項を持つ者同士の偶数ユニットでシェア生活を行う。共通項を持つ人々と行動をともにすることで、ゆるやかに繋がり、シェア生活での役割を果たすことを通して、周囲から承認され、受容される。このような体験は自己肯定感を高め、自信の回復につながる。同じ苦しみを持つ仲間と触れ合う中で、新たな人生に歩み出す手掛かりと勇気を与える。



谷岡 俊紀 ものつくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:大島 博明
指導教員名:大島 博明

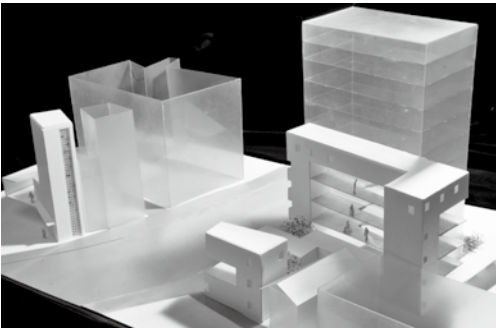


43 自然のなかの居住単位

新潟県山中に降る雪に注目して生活を考えた。冬にたくさんの雪をためこみ、夏に雪の冷気を利用する建築である。雪の“つもる”と“とける”によって建築内の光の入り方、温度が変化し、それは住人に冬の始まりや春の訪れを知らせる。雪という1つの媒体を通して季節を感じると共に、夏の涼しさに居心地の良さを感じられる建築である。



五月女 和香 横浜国立大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:北山 恒
指導教員名:藤原 徹平、宮 晶子、内海 彩、三浦 文典



44 早稲田に寄与するキャンパスと住まい ―Activate Waseda―

早稲田通りには戦後から栄えた古本屋街があり、現在まで約30軒が続いているが、店主の高齢化や本離れなどから10年後には半減すると考えられる。本計画では点在する古本屋を、住居やオープンスペースで繋ぎ再構成し、読書空間、憩いの場を提供すると共に、学生や店主が集まり住むことで、本を介した繋がりを生み、早稲田の街らしさが残っていく事を考えた。



佐野 優 早稲田大学
理工学術院 創造理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名/指導教員名:石山 修武、中川 武、入江 正之、渡辺 仁史、佐藤 滋、古谷 誠章、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、佐藤 宏亮、阿部 俊彦、小岩 正樹、渡邊 大志

9年連続で
東京都の合格者の半数以上は、
当学院現役受講生でした。

No.1

平成23年度 1級建築士 設計製図試験

東京都 合格者占有率

54.5%

東京都合格者 1,027名中、当学院現役受講生 560名

一級建築士 卒業学校別実績

[平成23年度 一級建築士設計製図試験 卒業生合格者30名以上の全学校一覧]

下記学校卒業生合格者の**55.9%**が、総合資格学院現役受講生
合格者 2,164名中 当学院現役受講生 1,209名

日本大学	卒業合格者 267	総合資格学院 利用者数 154
東京理科大学	卒業合格者 129	総合資格学院 利用者数 77
芝浦工業大学	卒業合格者 100	総合資格学院 利用者数 55
近畿大学	卒業合格者 83	総合資格学院 利用者数 46
工学院大学	卒業合格者 80	総合資格学院 利用者数 35
明治大学	卒業合格者 80	総合資格学院 利用者数 55
早稲田大学	卒業合格者 78	総合資格学院 利用者数 47
中央工学校	卒業合格者 66	総合資格学院 利用者数 23
神戸大学	卒業合格者 59	総合資格学院 利用者数 41
法政大学	卒業合格者 59	総合資格学院 利用者数 38
名城大学	卒業合格者 55	総合資格学院 利用者数 40
東海大学	卒業合格者 54	総合資格学院 利用者数 27
千葉大学	卒業合格者 53	総合資格学院 利用者数 32
関西大学	卒業合格者 51	総合資格学院 利用者数 30
名古屋工業大学	卒業合格者 48	総合資格学院 利用者数 34
横浜国立大学	卒業合格者 44	総合資格学院 利用者数 27
大阪大学	卒業合格者 44	総合資格学院 利用者数 20
大阪工業大学	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 25
東北大学	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 29
東京都市大学	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 25
京都大学	卒業合格者 41	総合資格学院 利用者数 19
関東学院大学	卒業合格者 39	総合資格学院 利用者数 18
京都工芸繊維大学	卒業合格者 39	総合資格学院 利用者数 24
神奈川大学	卒業合格者 39	総合資格学院 利用者数 24
熊本大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 11
広島工業大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 16
金沢工業大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 10
大阪市立大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 19
中部大学	卒業合格者 34	総合資格学院 利用者数 16
広島大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 17
鹿児島大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 17
千葉工業大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 15
九州大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 16
大阪工業技術専門学校	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 18
北海道大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 18
愛知工業大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 17
三重大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 24
東京工業大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 21
東京電機大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 14
東洋大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 15

※卒業学校別合格者数は、試験元である
(財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。



総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F
TEL. 03-3340-2812 URL. <http://www.shikaku.co.jp>

開講講座

＊一級建築士 ＊二級建築士 ＊一級建築施工管理技士 ＊二級建築施工管理技士 ＊一級土木施工管理技士
＊宅地建物取引主任者 ＊インテリアコーディネーター ＊管理建築士講習 ＊監理技術者講習

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者は、(財)建築技術教育普及センター発表による。＜12月15日現在＞